

御嶽神社の狛犬

(みたけじんじや の こまいぬ)

板橋区登録有形民俗文化財(信仰) 昭和62年2月27日登録

所在地：板橋区桜川1-4-6

交通：東武東上線「上板橋駅」徒歩11分

国際興業バス「桜川」徒歩6分

[池袋駅東口⇄光が丘駅(光02)]

御嶽神社は、上板橋地域の栗原七軒屋の人たちが、武州御嶽山(青梅市)から勧請したと伝えられています。

御嶽山は、平安時代に修験道の霊山として蔵王権現が祀られたことに始まります。江戸時代には御嶽神社へ登拝する「御嶽講」が組織され、また山内の御師による武蔵・相模・甲斐の都市農村部への活発な檀家廻りによって、現世利益的な家内安全・五穀豊穡を願う、日常生活に密着した信仰として広がりを見せました。

その際に配付される神札は「御神狗」と呼ばれ、火災盗難病難退除の御札として知られています。神狗は狼(山犬)のことで、「大口の真神」と尊称され、山の神の眷属として、あるいは山の神そのものとして神聖視されていました。このため、御嶽神社の狛犬は狼型をしています。登録文化財となっているのは、区内では当社に三対しかない狼型狛犬のうちの、嘉永7年(1854)造の一对で、当時、神社の肝煎をつとめていた宝田氏・木下氏が中心となり安置したものです。

